

| | |
|----------|---|
| 学校名 | 昭和町立常永小学校 |
| 研究主題 | 新しい時代を担う児童の育成 ～外国語科と外国語活動の充実を通して～ |
| 研究のキーワード | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科・外国語活動における「言語活動の充実」を図った授業づくり ・主体的に英語を用いてコミュニケーションを図るために、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を設定 ・外国語科・外国語活動における学習評価や観点別評価 ・パフォーマンス課題の設定とその見取り方（評価方法、ルーブリック） ・評価シートの開発 ・学習到達目標（CAN-DO リスト形式）の作成と見直し（2年次） ・ICT機器の活用（2年次） |

1 研究内容及び具体的な研究活動

（1）研究内容

○学校教育目標である「ともに学び合い、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を目指し、本校の児童の実態を踏まえながら、日常の授業の充実を図り、学力の向上を図る。

○外国語科（外国語活動）とプログラミング教育を中心としつつ、あらゆる教育活動を通して、コミュニケーション能力を育成する取組を進める。

【外国語科・外国語活動について】

- ・外国語科・外国語活動における学習評価や観点別評価、CAN-DO リストを活用したバックワードデザインの単元計画について、理論研究を進める。
- ・児童が、自分の考えや気持ちを、主体的に表現しようとする活動の中で、目標を達成できるようにするための言語活動を設定する。
- ・児童の英語による発信力を向上させるために、目的・場面・状況を意識した言語活動を設定し、「話すこと（発表）」「話すこと（やり取り）」の力を見取る。

（2）具体的な研究活動

①外国語科・外国語活動における学習評価や観点別評価、外国語教育における指導と評価の一体化について、講師を招聘して学習会を実施し、理論研究を深める。

②外国語科・外国語活動における「言語活動の充実」を図った授業づくりを進めるとともに、一人一実践にて、「教育活動の中での言語活動の充実」をテーマに実践を行う。

③研究授業の実施（第4学年、第6学年） ※指導案については、別紙参照。

- ・「児童のパフォーマンスをどのように見取るか。」を重点に、児童の実態に応じてパフォーマンス課題を設定し、「何を指導するのか。」「いつ、どのように評価するのか。」を計画し、バックワードデザインにて単元を構成する。

- ・児童のパフォーマンスを授業時間内で見取るための「評価シート」を作成し、授業参観者で実際に評価を行い、検証する。

第4学年 単元名 What do you want? (Let's Try! 2 Unit7)

本時の活動 「オリジナルピザを作るために、ほしいものをたずねたり答えたりしよう。」

第6学年 単元名 We all live on the Earth. (NEW HORIZEN Elementary 6 Unit5)

本時の活動 「動物のことについて詳しく伝えるようにやり取りをしよう。」

※動物園でお客さんと飼育員が動物についてやり取りをするという場面を設定し、パフォーマンスを行う。

<第6学年評価シートの例>

| No | Name | Animal | Knowledge and Skill | Ability to think, to judge, to express | Attitude of Independent learning |
|----|----------|--------|---------------------|---|----------------------------------|
| 32 | Tsuyoshi | Tiger | A B C | A(color, opinion, have, can good at, extra detail, Q) B C | A B C |

2 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 「効率的かつ信頼性の高い評価」を行うためには、単元を通して児童にどのような力をつけるのか評価規準を明らかにした上で、評価方法や評価シートの形式の工夫、評価基準を設定することが重要であることが分かった。研究授業では、児童のやり取りを効率的かつ適切に評価するために、ローテーショントーク（対話するペアが重ならないように循環させる方法）を取り入れた。ALTと学級担任で評価する場合、それぞれが定位置において評価を行い、児童がローテーショントークで移動することで、授業時間内に全ての児童を評価することができた。学習会や研究授業を通して、評価について具体的なイメージを持つことができた。
- 研究授業において、参観者も授業者と同じ評価シートを使い、評価の視点を持ち、児童を評価することで、より信頼性の高い評価を行うためには、どのような評価シートを使い、どのような観点で、どのような場の設定で評価を行うべきか、深く活発な話し合いを行うことができた。
- 「思考・判断・表現」を評価するには、内容面に関連させた継続的なやり取りが必要であることがわかった。内容面について測るのは難しさがあるが、評価シートにおいて、各センテンスを振り分ける指標を明確にしたことで、迷わず評価を行うことができた。評価シート（ルーブリック）が、どの学年でも活用できるように、今後も取組を進めていきたい。
- 単元において、また本時において、教師が児童に身に付けさせたい力を明確にすることで、フィードバックを的確に行うことができた。
- 学校として、信頼性の高い評価を行うためには、学級や学年の実態を踏まえた上で、評価基準を設定していくことが大切である。今後は、研究組織を活用し、児童の実態に合わせながら、校内で系統的に共有できる評価シート等の作成を進めていく。
- 初めに活動ありきではなく、どのような力を身に付けるための活動なのかという目的意識と、それを的確に評価する方法も含めて、今後も研究を進めていく必要がある。そのためにも、本校のCAN-DOリストを見直すとともに、本校としてCAN-DOリストをどう活用していくのかを考えていく。
- 研究授業を実施する上で、ICT機器を使い、工夫して授業公開をしていきたい。

3 研究授業の概要

【第4学年】

(1) 単元名 What do you want? ほしいものは何かな? (Let's Try! 2 Unit 7)

(2) 「CHALLENGE リスト」の形での学習到達目標 (第3学年)

| 聞くこと | 話すこと [やり取り] |
|---|--|
| ゆっくりはっきりと話された際に、よく知っている人や物、学校や家での出来事や日常生活で起こることなどを聞いて、基本的な表現の意味が分かるようにする。 | 学級の友達、先生、ALT等のサポートを受けて、自分や相手のことや身の回りの物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、答えたりすることができる。 |

(3) 本時の目標

オリジナルピザを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、ほしい食材とその数を尋ねたり要求したりする。
[思考力・判断力・表現力等]

(4) 本時の評価規準

オリジナルピザを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、ほしい食材とその数を尋ねたり要求したりして伝え合っている。
[思考・判断・表現]

(5) 授業の展開 (第4時間目/全5時間)

| 時間 | 児童の活動 | 指導者の活動 | 指導上の留意点 ◎評価規準 (評価方法) |
|--|---|---|-------------------------|
| 2分 | 1. Greeting ○あいさつをする。 | H/A: 英語であいさつをする。 | ・デジタル教材 |
| 3分 | 2. Warm Up ○【Let's Chant】What do you want? ・ほしいものの尋ね方と答え方を復習する。 ・音声に合わせてチャンツを言う。 | A: 正しい発音で尋ね方・答え方ができるように指導する。 H: ジェスチャーをしながらチャンツが言えるように指導する。 A: 正しい発音で児童と一緒にチャンツを言う。 | ・デジタル教材 |
| 30分 | 3. Activity ・本時のめあてを確認する。 | H: 本時のめあてを提示し児童と確認する。 | |
| オリジナルピザを作るために、工夫してほしいものをたずねたり答えたりしよう。 | | | |
| | ○ピザの食材の言い方を確認する。 | A: 正しい発音で尋ね方・答え方ができるように指導する。 | ・食材のスライド |
| | ○デモンストレーションを通して、本時の見通しを持つ。 | H/A: デモンストレーションを通して、これからの活動の見通しを持たせる。 H: スライドを使って、活動の進め方と動線を説明する。 | ・デモンストレーション用のスライド |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>前半 Aグループ: 客/Bグループ: 店員 後半 Aグループ: 店員/Bグループ: 客 ※3種類5枚までもらうことができる (もともと台紙に1種類5枚まで貼ってある。) ※先頭の人から一人ずつやり取りを行い、自分の番が終わったら班の列の最後尾に移動する。</p> </div> | | | |

| | | | |
|----|--|--|---|
| | <p>○前半 店員と客の役になって、やり取りをする。 店員→客に食材を渡す。 客→店員から食材をもらう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"><想定される児童のやり取り例></p> <p>S1/S2 : Hello.</p> <p>S1: What do you want? S2: I want tomatos. please. S1: How many? S2: Three please. S1: Here you are. S2: Thank you.</p> </div> <p>○友達の様子を見て、相手に伝わるよりよいやり取りの工夫を考える。</p> <p>○後半 店員と客の役になって、やり取りをする。 店員→客に食材を渡す。 客→店員から食材をもらう。</p> <p>・全部集め終わったら、食材をピザの台紙に貼る。</p> | <p>H/A: 言い方がわからない児童の支援をする。 H: 自分の番が終わった児童に、班列の最後尾に移動するように指示をする。</p> <p>H: 前半のやり取りが終わったら児童を席につかせて、全体で共有すべき視点を指導する。</p> <p>H: 役割を変えて、後半の活動をさせる。 H/A: 言い方がわからない児童の支援をする。 H: 自分の番が終わった児童に、班列の最後尾に移動するように指示をする。</p> | <p>・ピザの台紙 ・食材カード</p> <p>◎オリジナルピザを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材とその数を尋ねたり要求したりして伝え合っている。 (行動観察・振り返りカード点検)</p> |
| 5分 | <p>4. Review</p> <p>○本時の活動を振り返り、カードに記入する。</p> <p>○あいさつをする。</p> | <p>H: 児童の振り返りを観察し、次時の授業の見通しを持つ。</p> <p>H/A: 英語であいさつをする。</p> | <p>・振り返りカード</p> |

(6) 評価の記録例

○行動観察

- ・相手に伝わるようにほしい食材とその数を尋ねている児童
→「相手に伝わるように尋ねている」にチェック
 - ・相手に伝わるようにほしい食材とその数を要求している児童
→「相手に伝わるように要求している」にチェック
 - ・相手に伝わるような工夫
→「良かったところ」にジェスチャー、リアクション、繰り返し、挨拶、BESTLなどと記入。
- ※評価規準に基づくものではないが、知識・技能、主体的に学習に取り組む態度に関連した様子が見られた場合も記述する。

○振り返りシート

- ・学んだ単語や表現について記述することができている児童
→「単語や表現に慣れ親しんだ。」と記録。
- ・相手に伝えるために工夫した点を記述することができている児童
→「○○に工夫して」「○○に気を付けて」と記録。

教師用評価シート

4年生 Lesson 7 What do you want? 4年組 評価者()
 ○単元の評価規準
 【知識・技能】オリジナルパフェやオリジナルピザを作るために、欲しい食材とその数を尋ねたり要求したりすることに慣れ親しんでいる。
 【思考・判断・表現】オリジナルパフェやオリジナルピザを作るために相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材とその数を尋ねたり要求したりして伝えている。
 【主体的に学習に取り組む態度】オリジナルパフェやオリジナルピザを作るために、相手に伝わるように、欲しい食材とその数を尋ねたり要求したりして伝え合おうとしている。

| Group | No. | 名前 Name | 3時間目 | | | 4時間目 | | |
|-------|-----|------------|----------------|-----------------|---------------------------------|----------------|-----------------|---|
| | | | 尋ねることに慣れ親しんでいる | 要求することに慣れ親しんでいる | 良かったところ (スラスラ言えている、BESTL、など) | 相手に伝わるように尋ねている | 相手に伝わるように要求している | 良かったところ (ジェスチャー、リアクション、繰り返し、挨拶、BESTL、など) |
| | 1 | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | |

4年生の授業の様子

今日は、オリジナルピザを作ろうね。
 お店屋さんは、このかっこいいコック帽をかぶってね（相手意識を高める。）




店員は、友達にほしい物は何か、尋ねています。
 お客さんは何がほしいのか、いくつほしいのか伝えます（ローテーショントークの実施）。

相手に渡す材料の数を確認するために数えていたね！（中間指導で児童の気づきを促す。）



相手に伝わるように工夫して、ほしい材料とその数を尋ねたり、要求したりすることができました。材料が揃って、オリジナルピザが完成しました。



相手に伝わるように工夫をしている児童の姿

- ・目的や場面、状況に応じて、繰り返し、確かめ、ジェスチャー、強調などを行っている。
- ・これまで慣れ親しんだ語句や表現を使っている。

【第6学年】

- (1) 単元名 We all live on the Earth. (NEW HORIZEN Elementary 6 Unit5)
 (2) 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標 (第6学年)

| 話すこと [やり取り] | 書くこと |
|---|--|
| 動物がどこで暮らし、何を食べているかなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、情報や考えを伝え合うことができる。 | 自分が知っている情報や考えについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。 |

※「書くこと」については、目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。

- (3) 本時の目標
 動物園で飼育されている動物のことについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、その動物がどこで暮らし、何を食べているのかなどの情報や自分の考えをより詳しく伝え合うことができる。
 [思考力・判断力・表現力等] [学びに向かう力・人間性等]
- (4) 本時の評価規準
 ・動物のことについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合っている。
 [思考・判断・表現]
 ・動物のことについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合おうとしている。
 [主体的に学習に取り組む態度]

(5) 授業の展開 (第6時間目/全8時間)

| 時間 | 児童の活動 | 指導者の活動 | 指導上の留意点 ◎評価規準 (評価方法) |
|---|--|--|-------------------------|
| 5分 | ○Greeting ○Animal Quiz ・ヒントを聞いて、何の動物のことか当てる。 | ・動物の食べるもの、住んでいるところに加えて、できることや様子などをヒントとして提示する。 | ・デジタル教材 |
| 10分 | ○Let's watch and Think ・デモンストレーションを通して、本時の見通しをもつ。 | ・デモンストレーションを通して、これからの活動の見通しをもたせる。 ・どのようなことを伝え合うことができそうか考えさせる。 | ・紹介する動物のスライド |
| <p>H: Let's try Alligator's zookeeper, Sam. (HRT がお客さん役, ART がワニの飼育役で前時までのようなやり取りを見せる。)</p> <p>A: How was it? H: It's good but normal. I can be a super alligator's zookeeper. I have a good idea. ※役割を交換してやり取りを見せる。</p> <p>A: Excuse me? H: Yes? A: This is an alligator, right? H: Yes. It's green and black. Alligators have big mouth. And alligators can run fast. That's cool, right? A: Yes, That's cool. Where do Alligators live? H: Alligators live in the river. A: I see. What do alligators eat? H: Alligators eat meat. A: Me? H: No, alligators eat MEAT!! A: Oh...meat. I got it. What meat do alligators eat? H: That's a nice question. Alligators eat big fish, pigs, and sheep. A: Alligators eat pigs!?! I didn't know that. Thank you. You are a super alligator's zookeeper.</p> | | | |
| ・前半と後半のやり取りにはどのような違いがあったか考える。 | | ・動物のことが、相手により詳しく伝わる表現について、児童の気付きを引き出す。 | |

| 【Today's Goal】動物のこについて詳しく伝わるようにやり取りをしよう。 | | | |
|--|---|---|---|
| 30分 | <p>○Let's Try</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物のこが相手により詳しく伝わるように、お客さんグループと飼育員グループに分かれて友だちとやり取りを行う。 <p>〈想定される児童の工夫例〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>前回までのやり取りに追加して、 It's ... (色や大きさ、様子など) ~ have ... (動物の体の特徴) ~ can ... (その動物ができるこ) What meat(plant) do ~ eat ? ~ eat ... (具体的な食べ物など)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 役割を変え、やり取りを行う。 自分たちのやり取りがどのように変化したか共有する | <ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを再度確認する。 児童のやり取りを観察しながら、質問をしたり、賞賛をしたりする。 児童の様子を見ながら、適宜活動を止め、全体で共有すべき視点を与える。 必要に応じて、自分の伝えたいこをどのように伝えたらよいかを、ワードカードを用いて支援する。 役割を交代する指示を出す。 本時の活動でどのような既習の表現を用いることができていたか、児童の活動の様子を紹介する。 | <ul style="list-style-type: none"> ワードカード ◎動物のこについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合っている。(行動観察) ◎動物のこについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合おうとしている。(行動観察) |
| 5分 | <p>Review</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ動物を担当する児童同士で今日のやり取りについて共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいに照らして児童を称賛する。 | |

(6) 評価基準

「話すこ [やり取り]」の思考・判断・表現

| 十分満足できる状況(a) | おおむね満足できる状況(b) | 努力を要する状況(c)と指導の手立て |
|---|--|--|
| 相手の反応を確かめながら、動物のこについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合っている。また、動物のこについてより詳しく伝え合っている。 | 動物のこについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合っている。 | 自ら既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合っていない。 →ワードカードやイラストを用いながら個別支援を行う。 |

「話すこ [やり取り]」の主体的に学習に取り組む態度

| 十分満足できる状況(a) | おおむね満足できる状況(b) | 努力を要する状況(c)と指導の手立て |
|---|---|---|
| 相手の反応を確かめながら、動物のこについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合おうとしている。また、動物のこについてより詳しく伝え合おうとしている。 | 動物のこについて知ったり詳しく知ってもらったりするために、既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合おうとしている。 | 自ら既習の語句や表現を用いて、動物がどこで暮らし、何を食べているかなどの情報や自分の考えを伝え合おうとしていない。 →ワードカードやイラストを用いながら個別支援を行う。 |

教師用評価シート

○評価シートへの記入方法

C: Excuse me?
 Z: Yes?
 C: This is an alligator, right?
 Z: Yes. (1) It's green or black. (3) Alligators have big mouth.
 (4) And alligator can run fast. (2) That's cool, right?
 C: Yes, That's cool. (*) I have two questions. Where do Alligators live?
 Z: Alligators live in the river.
 C: I see. What do alligators eat?
 Z: Alligators eat meat.
 C: (*) Me?
 Z: No, alligators eat MEET.
 C: Oh...meet. I got it. (6) What meat?
 Z: (*) That's a nice question. (5) Alligators eat big fish, pigs, and sheep.
 C: Alligators eat pigs!?! (*) Wow!! Thank you.

※赤字のみのやり取りはB基準とする。

※各センテンスを以下に振り分けA基準とする

- (1) color
- (2) opinion
- (3) have
- (4) can
- (5) extra detail
- (6) Q ※客役を評価する。

(*) の表現については、状況に応じた表現であるが、主体的に取り組む態度として評価する。

| No | Name | Animal | Knowledge and Skill | Ability to think, to judge, to express | Attitude of Independent learning |
|----|----------|--------|---------------------|---|----------------------------------|
| 32 | Tsuyoshi | Tiger | A B C | A (color, opinion, have, can, good at, extra detail, Q) B C | A B C |

| Unit5 We all live on the earth | | Evaluation sheet | | | |
|--------------------------------|------|------------------|---------------------|---|----------------------------------|
| No | Name | Animal | Knowledge and Skill | Ability to think, to judge, to express | Attitude of Independent learning |
| 1 | 児童A | Tiger | A B C | A (color, opinion, have, can, good at, extra detail, Q) B C | A B C |
| 2 | 児童B | Bear | A B C | A (color, opinion, have, can, good at, extra detail, Q) B C | A B C |
| 3 | 児童C | Eagle | A B C | A (color, opinion, have, can, good at, extra detail, Q) B C | A B C |
| 4 | 児童D | Elephant | A B C | A (color, opinion, have, can, good at, extra detail, Q) B C | A B C |

6年生の授業の様子



「今まで学習してきたこと覚えているかな？」
 今日学習することのめあてを児童と共有します。



Zookeeper 役をしている友達のところに、Guest 役の友達がやってきて、やりとりを始めます。(ローテーショントークの実施)
 HRT と ALT は、定点で評価シートをもとに、評価を行います。
 自分が飼育している動物のこと、伝えられているかな？

中間指導です。友達の様子からどんなことがわかるかな？こんなところがいいなあと思うところを自分の表現に生かしてみよう！そんな確認をしています。
 中間指導の後はさらにレベルアップしたやりとりの様子が見られました。